



生徒の相談行動を促進するために



SOS が出せる環境とは？

今日、子どもの命を守るために「SOS の出し方教育」の推進が求められています。どのような条件を整えば、子どもたちは SOS を出すことができるのでしょうか？

このことを明らかにするために、中学生を対象に相談行動に関する調査を実施しました。

中学生の相談行動に関する調査

【目的】相談行動の実態や相談行動を促進・抑制する要因を明らかにする。

【方法】①悩みを抱えた際の相談意図(相談しようという気持ち)、②相談行動への意識(肯定的な意識、否定的な意識)、③(生徒が捉える)学級の雰囲気、④(生徒が感じる)教師への信頼感についてのアンケート調査。

【調査協力者】市内 8 中学校の生徒 1373 名(男子 690 名, 女子 683 名)

第 1 部 中学生の相談行動の実態

相談相手と相談内容別の相談意図～誰にどのような相談をしようと思うのか？

(非常にそう思う4点～全くそう思わない1点)

☆親や教師に対しては、勉強や進路についての相談意図得点が友人関係や心身の悩みについての相談意図得点より高い。

－親への相談意図： 男子<女子、 教師への心身の悩みの相談意図： 女子<男子

☆友人に対する相談意図は、どの領域についても比較的高い。

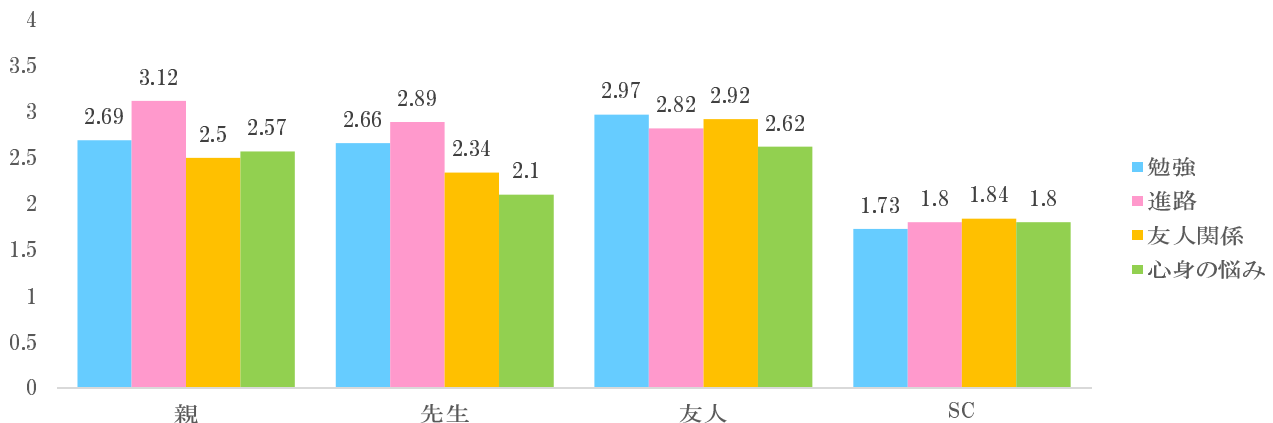
－友人への勉強についての相談意図： 2年女子<1, 3年女子、

－友人への友人関係についての相談意図： 男子<女子

☆スクールカウンセラー(SC)への相談意図はいずれも低い。

－SC への進路, 心身の悩みについての相談意図： 1年>3年

図1 相談相手・相談内容別相談意図



相談行動への意識～相談することをどのように捉えているのか？（そう思う5点～そう思わない1点）

相談行動へのポジティブな意識:「相談するとよい意見やアドバイスをもらえる」「相談すると気持ちやすっきりする」など。

相談への不安:「相談すると相手からのイメージが悪くなる」「相談するとダメな子だと思われる」。

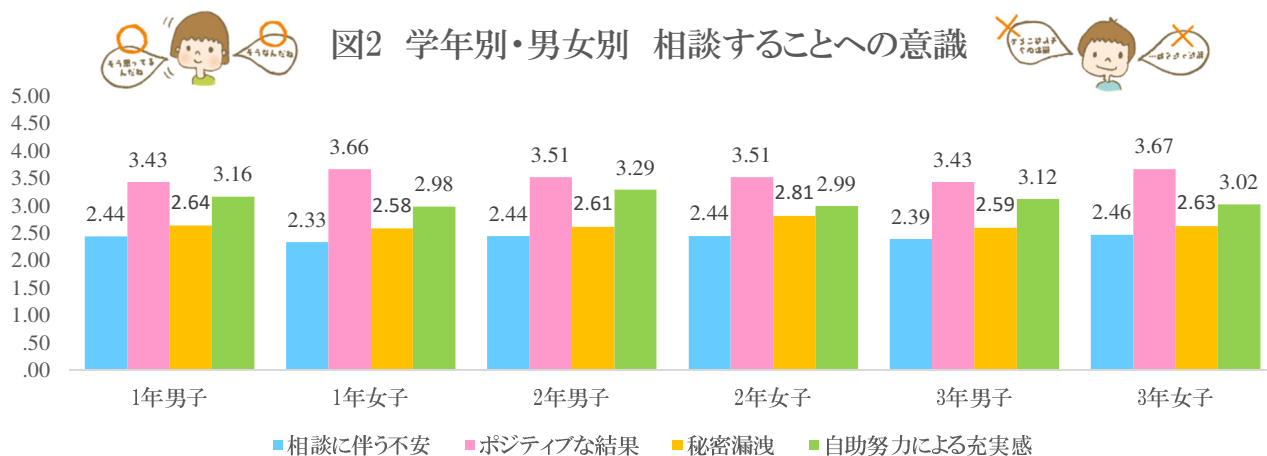
秘密が漏れる不安:「相談すると相手が悩みの内容を他の人に言ってしまうと思う」など。

自助努力による充実感:「人に相談するよりも自分で何とかすることで成長できると思う」。

☆全体としては、ポジティブな意識、自助努力による充実感、秘密が漏れる不安、相談への不安の順に高い。

☆1年、3年では男子より女子が、相談行動へのポジティブな意識を強く持っている。

☆自助努力による充実感は、女子より男子が高い。



学級風土の認知～学級の雰囲気をもどのように捉えているのか？（そう思う5点～そう思わない1点）

学級満足感:「クラスには笑いが多い」「遠慮なく話せる雰囲気」など。

学習志向性:「クラスは勉強熱心だ」「授業中よく集中している」など。

学級内不和:「クラス全体が嫌な雰囲気になることがある」など。

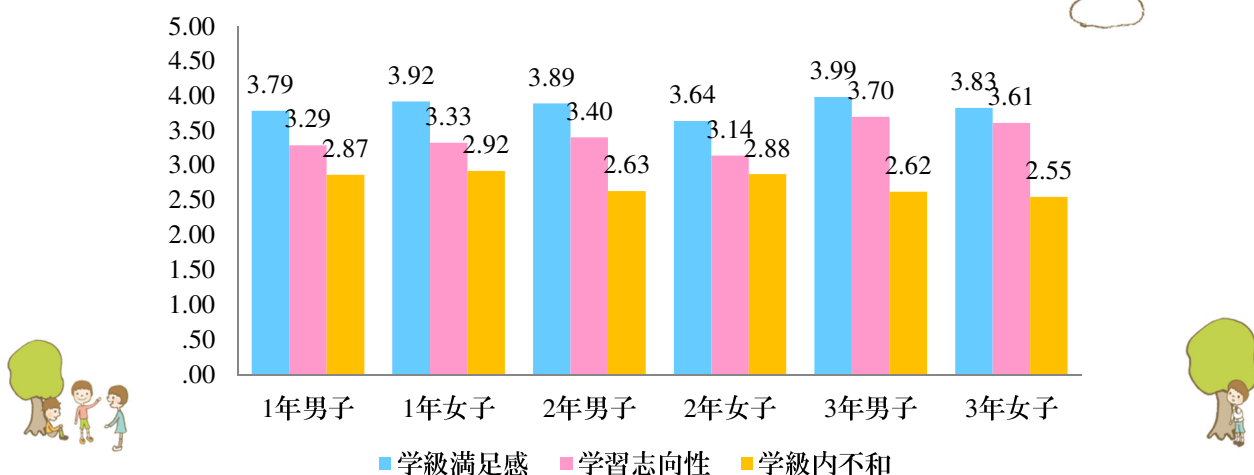
☆学級満足感得点：2年女子 < 1年女子, 2年男子

☆学習志向性得点：2年女子 < 1年女子, 2年男子, 3年女子

☆学級不和得点：2年女子 > 2年男子

2年女子は相対的に学校環境をネガティブに捉えている

図3 性別・学年別学級風土認知

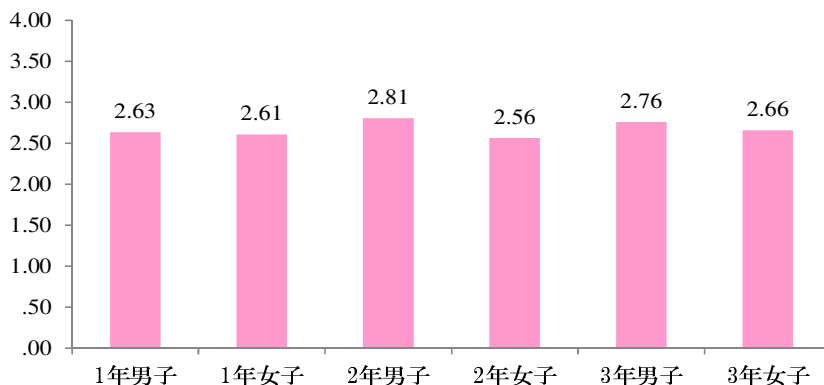


教師への信頼感(非常にそう思う4点～全くそう思わない1点)

教師への信頼感:「私が悩んでいるときに先生が私を支えてくれていると感じる」「私が不安な時、先生に話を聞いてもらおうと安心すると思う」「先生にならいつでも相談ができると感じる」など。

☆教師への信頼感: 全学年で**男子の方が女子よりも高い**

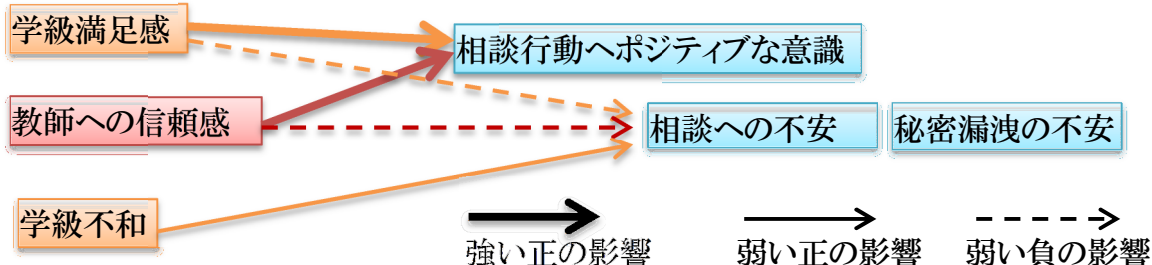
図4 性別・学年別教師への信頼感



第2部 中学生の相談行動の促進要因・抑制要因

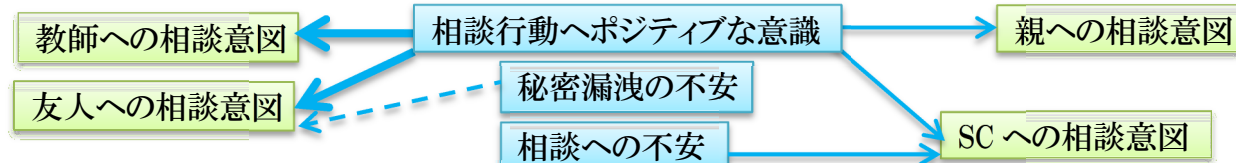
学級風土の認知, 教師への信頼感が相談行動の捉え方に及ぼす影響

- ☆学級満足感, 教師への信頼感が高いと, 相談行動へのポジティブな意識が高まる。
- ☆学級満足感, 教師への信頼感が低く, 学級不和が高いと, 相談への不安が高まる。
- ☆学級満足感, 教師への信頼感が低く, 学級内不和が高いと秘密漏洩への不安が高まる。



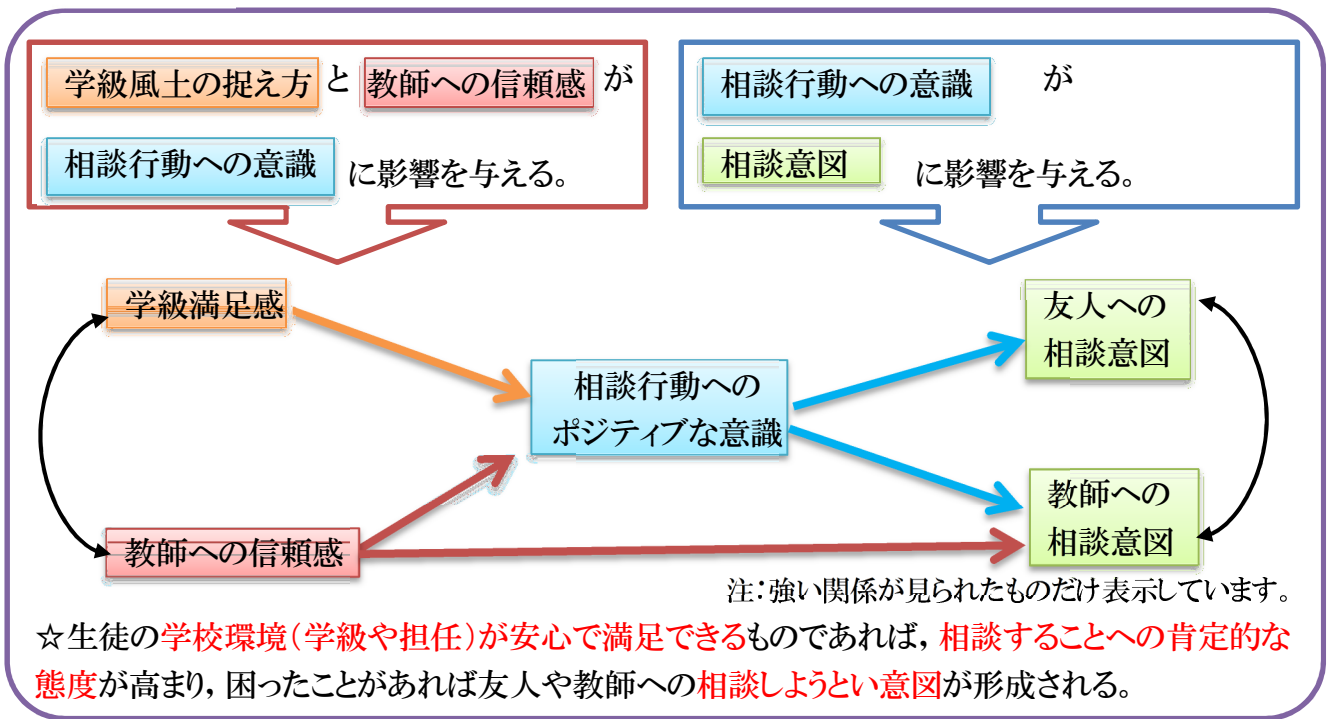
相談行動の捉え方が相談意図に及ぼす影響

- ☆相談行動へのポジティブな意識が高いと, 友人, 教師, 親, SC への相談意図が高まる。
- ☆秘密漏洩の不安が高いと, 友人への相談意図が低くなる。
- ☆相談に伴う不安が高いと SC への相談意図が高まる。





第3部 まとめ



子どもの命を守るには～SOSを出せる環境作り

- ☆子どもが自ら命を絶つ事態は何としても防がなければなりません。
- ☆子どもを対象とした自殺予防教育では、①自分や友人の心の危機に気づくこと、②SOSを出せるようになることを目指しています。
- ☆本調査では、②に関連して相談行動の促進・抑制要因の検討を行いました。
- ☆その結果、先生方が常日頃大切に取り組んでおられる安心で安全な学級環境やその基礎ともなる生徒と教師の間の信頼関係の重要性が改めて明らかになりました。
- ☆自殺予防は、決して特別なことではなく、日々の取組を再度点検し、子どもの学校環境を整えることが基本であることが確認されました。
- ☆他に、中学2年生女子が相対的に学校環境をネガティブに捉えていること、男子より女子が教師への信頼感が低いことが明らかになりました。女子については特に1年時からの丁寧な関わりで信頼関係を築くことが重要だと思われます。
- ☆SCが身近な存在でないことも相談意図の著しい低さから推察されます。1年時から心の授業などさまざまな機会をとらえて学級集団へ関わる機会を工夫いただけると幸いです。

本資料は、「平成28年度名古屋市子どもの自殺予防に関する調査研究事業補助金」を受けて、市内8校のご協力をいただいて行った調査結果に基づいています。ご協力いただいた学校、先生方には改めて心より感謝申し上げます。本資料に関するご質問・ご意見やより詳細な資料のご希望等ありましたら、以下までご連絡ください。

平成29年3月
名古屋大学大学院教育発達科学研究科心の発達支援研究実践センター 窪田由紀・杉岡正典
kubota.yuki@f.mbox.nagoya-u.ac.jp

